

# 歴女がゆく

私が出逢ったデイリーな中世

上空からの動画はQRコードから

大沢街道



Deep!

ココが中世!



寺の門前から鳩原・小深・石見川を通り、奈良県の五條に抜ける道を「大沢街道」といい、七郷の村の多くが点在しています。いにしへの面影を探して歩くと、自然の地形をいかした棚田やあぜ道など、中世を思わせる風景が続きます。

観心寺金堂



観心寺は花の寺としても有名。境内には四季折々の風景が広がり、紅葉が真っ赤に色づいていました。

薬師寺



500年以上前にはあったといわれるお寺。地元の方に案内してもらいました。



上下とも大日如来坐像



如意輪観音坐像

観心寺と七郷

後編

## 仏像と七つの村

多くの仏像を今に残す観心寺には、寺の営みを支えた周辺の村々との絆がありました。

観心寺には、平安時代から鎌倉時代にかけて作られた仏像や建造物などが多数あり、国宝や重要文化財にも指定されています。

中でも、国宝の如意輪観音坐像は平安時代前期を代表する傑作として知られ、毎年4月17・18日に拝観できます。また、境内の霊宝館では数多くの重要文化財の仏像が展示され見学もできます。

約千二百年にわたり、これらの貴重な歴史文化遺産を守り続けてきた観心寺。その営みを支えたのは他でもない周辺の村々でした。

「観心寺七郷」と呼ばれた村々は、観心寺鎮守社の祭礼の役を受け持つなど、寺の支配を受けながらも一体となって生活を営んでいました。岩瀬の薬師寺や鳩原の大日寺などにはそのころの仏像が今も残り、大日寺の仏像(右上写真)は観心寺に寄託され霊宝館に展示されています。これらのことは寺と地域の関係の深さをうかがわせます。

### 中世トリビア② 観心寺七郷とは

七郷とは、現在の鳩原・太井・小深・石見川・鬼住(神ガ丘)・上岩瀬・下岩瀬にあたり、村々は領主である観心寺に年貢(税)を納めることで、寺の経済基盤としての役割を果たしていました。また、村人が観心寺の僧侶になったり、観心寺内のもめごとを村の有力者が仲介するなど、切り離せない絆を結んでいました。



### 今回の歴女 岡吉康代さん

観心寺は小さいころ祖父によく連れてきてもらった思い出深い場所。お寺だけでなく、そのまわりにも長い歴史があることを今回知りました。そんな場所を歩く自分も歴史の一部になった気がして、見慣れた景色が違って見えました。

